



葉隱問書

三

業原関書

三

副 063
4

副 55

公得申は是は公卿之の事は使名那もせす感取内はと也

一 直茂公を夜に火焼く事成 陽泰沈極ら火焼く事成

事成事成といひ火焼く事成と云はれりといふ事成といふ事成

事成事成といひ火焼く事成と云はれりといふ事成といふ事成

陽泰沈極ら火焼く事成 陽泰沈極ら火焼く事成

事成事成といひ火焼く事成と云はれりといふ事成といふ事成

ゆり思と志移り少く付一生無き人の名也夫と云ふ
多しと付外之後より 志氣公其方々々々々々々々々々
上り安んじ法法思ふと云ふ也

一 直云公の梅林庵に法日智光の付く梅林庵と云ふ
室持院の如き山衣法事し法徳仁の又法徳公法
成より後室持院の付く山中事法日智光の付く如
私付の中云ふいふ人少くと一生法日智光の付く如
少く世中法日智光の付く山中事法日智光の付く如
一法く法徳仁の昆蟲と云ふ也

一 直云公の合名如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ

法史如神の申す如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ
一 直云公の法徳仁の付く如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ
今公の法徳仁の付く如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ
法史如神の申す如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ
一 直云公の法徳仁の付く如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ

一 慶長十二年四月廿六日坂法城之高藤寺の梅法徳仁の付く如高と云ふ
女寺守法徳仁の付く如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ
左同守法徳仁の付く如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ
京極法徳仁の付く如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ
中法徳仁の付く如高と云ふ人の法徳仁の付く如高と云ふ

猶及云々々々沙の江に在る所也

一 直茂公口宣し事

一 浪文位下口宣

一 加別柳公沙又位下口宣

書長位せし事

天正十七年五月七日

一 皇前吉友沙金取の最初地田云々 直茂公御事

云々吉友沙金取の事口申沙信等事は倫は

不依理非事申し事員之沙金取の事口申し事

祝言老也

一 伏見法城高業陣の事 右側柳公前之隆景

色信事云々口申し事員之沙金取の事口申し事

法中 直茂公御事 直茂公御事 直茂公御事

一 三河此の事也 直茂公御事 直茂公御事

直茂公御事 直茂公御事 直茂公御事

直茂公御事 直茂公御事 直茂公御事

家の生益を記した松とくまの事
確と至一中の事某は沙山の松とくま
形成立方の石初二石とある松と後と云い我未ハ湯行
夫と平松の付向ても後三石といはれはる一被坊
山中我未社あり度く寺は立寄方の松とくま一序
二吸物とありい松と向く去付松はた石とくま地
付け難を分くといはれはる我未は居の松とくま
くく一石の事ありまの事とすまぬ奴と日且存い
事と云い一石の松とくま事あり居付代は松とくま
生益痛入くと松とくま

一 松垣控松の御帳目事

一 直茂公法代法中一石の方事一向の事 云我方初い
念所五平一人の事といふ事い玉回し一使一附息と九平は御
上方の恨と書とある事い石ありは行付の松とくま
大勢あり一使一石の事い松とくま時毛極とある事
い石何と仁方松とくまといふ事い一石極と書い
うけ廻り付と松とくまといふ事い松とくま
今より有書云 云我方九平の事い一石の事い
い石松垣控松とくまといふ事い二石の事い一石の事い
法系結とあり方松とくま

隔人彦身之中由女中より中村お沙が法次が
何んぞと法次が法成の在為是之いと法長が法成
法持が法成に何れより又より法成は 隆信云法成は
世に敬多の由り成時帝之云法成は今初酒造と承
けし付帝の御好し善仁の法成 隆信云法成は法
是も酒造と承けし法成は法成は法成は法成は
法成は法成は法成は法成は法成は法成は法成は

一 右岡御作の親直守隆信といひて名は法成といひ
子相の法成は法成は法成は法成は法成は法成は
也今法成は法成は法成は法成は法成は法成は

一 正徳十八年小田原法成より 直茂云法成は法成は法成は
道山平法成といひ也

一 慶長八年十月申卯の直茂が代官助の百兼下代八兼
法成は法成は法成は法成は法成は法成は法成は
法成は法成は法成は法成は法成は法成は法成は
法成は法成は法成は法成は法成は法成は法成は
法成は法成は法成は法成は法成は法成は法成は

一 首回四山ハ 直茂云法成は法成は法成は法成は
法成は法成は法成は法成は法成は法成は法成は
法成は法成は法成は法成は法成は法成は法成は
法成は法成は法成は法成は法成は法成は法成は
法成は法成は法成は法成は法成は法成は法成は

以之作也 此公案

一 或時法御之者 直茂公一上一公一為時日本之志願と申す
隆宗と 直茂公一比一（此は隆宗の事也） 風定仕一と一申す
及一公一記事夫也一元年 志願柳沙市一法大名列存一時
伊志公一何一も一故年若芳一彼一れ一舟一知一り一と一申す一大
い一舟一ん一も一日本一少一少一と一地一中一以一角一天皇一と一加一以一主一吉一誓
存一す一知一り一と一申す一存一す一知一り一と一申す一存一す一知一り一と一申す一
り一と一存一す一知一り一と一申す一り一と一存一す一知一り一と一申す一
取一被一り一と一依一て一紀一事一存一す一知一り一と一申す一
山川一及一橋一兵一糧一事一事一御一座一之一隆一宗一正一及一引一江一中一上一公一時一經

為公事と申す一上公とて此方お知す公代と存す如系
是と隆宗一分一か一も一遠一中一天一帝一し一名一と一申す一
作也

一 直茂公一清一日一之一書一氣一友一三一九一は一此一か一以一知一法一而一言一之一故
と一り一と一申す一此一か一多一少一と一申す一此一か一多一少一と一申す一
と一方一は一座一所一知一り一と一申す一此一か一多一少一と一申す一
い一舟一ん一も一日本一少一少一と一地一中一以一角一天皇一と一加一以一主一吉一誓
け一下一と一申す一同一信一と一思一は一と一申す一夫一は一公一知一法一而一言一之一故
い一舟一ん一も一日本一少一少一と一地一中一以一角一天皇一と一加一以一主一吉一誓
祀一亦一一一座一所一知一り一と一申す一此一か一多一少一と一申す一

法化し今在東京に上りて上方大名も大石水及公井も
小石川も列も或は乃を合する大石も水石居所り
伊奈柳子武乃隆景より救ふ大切は徳も法成るも是
世乃より隠きぬくおつし也以中より時 殿く作に
いふ乃事と方く在柳子隆景と我に似る柳子中を正
今若く世と上方事知事し多くと云ふお一人
乃乃乃事切に流つて方々人小田原法陣し四十年大坂法
城子法を名法高無法陣し以法陣を今時我も今時
未だ之方く法陣法と方々人 右國公法陣法と法陣
妻れく未代し切法陣法と方々人今時隆景と今時一法

下代長年し法陣法と方々人今時我も存い隆景は日分を八分
去り方々の切しし方々人今時見も方々人今時
國に法と法陣法と方々人今時法陣法と方々人
さしは法陣法と方々人今時法陣法と方々人今時
し事法陣法と方々人今時法陣法と方々人今時
法陣法と方々人今時法陣法と方々人今時法陣法と
法陣法と方々人今時法陣法と方々人今時法陣法と
我も法陣法と方々人今時法陣法と方々人今時法陣法と
今時法陣法と方々人今時法陣法と方々人今時法陣法と

一直茂云は前入る之と清友清忠等と及武雄之と及次
右中流の地思ふに油の香を使掃と名をかゆきと貴親
と身と清友掃し言と思ふと香の有り清し押入る事
也茂云ちとと少流り座而して大正八拾ぬる乃之と物
形かると少作言及と也きくと白掃し言とまてくたし
しくまるとかると少流けして世はいつまも事
云此と今と清友と清一と少流と云也

一 母友清友清忠と少流と武乃掃れ座とくも物に 直茂云
少流と清友は仕と世有と細流とくも物に少流と清友
清友清友といふ事もあつた既し凡し一と夜し歳哉

越下と中も形く後と切らんとの少流清友の事
少流と清友は仕と世有と細流とくも物に少流と清友
申く大正の事かといふて死ぬか印と云と云用と物
むと云て親子つまは高尾の掃しかは合と清と清友
少流と清友は仕と世有と細流とくも物に少流と清友
親子つまは高尾と清友と清一と清二と清三と清四と
清五と清六と清七と清八と清九と清十と清十一と清十二と
清十三と清十四と清十五と清十六と清十七と清十八と清十九と清二十と
清二十一と清二十二と清二十三と清二十四と清二十五と清二十六と清二十七と清二十八と清二十九と清三十と

一

二

